

(様式第1号)

平成26年度 第3回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成27年2月25日(水) 13:00~15:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 守上 三奈子 副委員長 中田 伊都子 委員 谷川 久吉 委員 中上 二郎 委員 宇佐見 裕子 委員 金本 ひとみ 委員 西野 悦子 委員 丸田 朋子 委員 山田 和廣 委員 田中 徹 委員 西村 雅代
欠席者	委員 中村 美津子 委員 北野 章 委員 茶嶋 奈美
事務局	生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課管理係長 北條 安希 生涯学習課 松本 かづみ
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 安全管理人の研修及び意見交換について(報告)

イ 平成26年度の事業報告及び平成27年度の取組みについて

ウ その他

2 提出資料

・レジメ

・平成26年度の事業報告について

・平成27年度の取組みについて

3 審議内容

(1) 議題

<守上委員長>

議題ア安全管理人の研修及び意見交換の報告について、事務局よりお願いします。

<事務局：北條>

12月5日校庭開放安全管理人を対象に芦屋市立浜風小学校養護教諭の武内敬子氏を講師に迎えてお話をお聞きしました。武内先生には保健室でのケガの対処や救急セットにそろえておくの良いものなどについてお話いただきました。

その後、普段の業務を行う中での気付いた点などについての意見交換をしていただきました。意見交換では、参加者名簿への記載をしないで遊んでいる子どもたちがいるので、どのようにすれば徹底できるのかなどについての話がありましたので、子ども達に名簿記入を促すような改善策について、来年度に向けて検討しています。

当日は、53名登録されている安全管理人のうち20名が参加されました。以上です。

<守上委員長>

質問、意見等ございますか。

<西野委員>

参加者名簿に記入しているのは、一旦下校して参加している学校だけですか。

<事務局：北條>

傷害保険の関係もございますので、全校において参加者名簿への記載は必要です。

<西野委員>

一旦下校しない学校については、受付の際に保護者の印を押したカードを持ってくるので、名前などはその時に確認できるのではないですか。低学年の子どもが名前を書くのに時間がかかるということはないですか。

<事務局：松本>

管理人さんがカードを見て書いてあげるということになると、列が長くなって、遊ぶ時間が短くなると思います。参加する子どもたちが何列かに分かれて自分で書く方が時間も短くできます。

<中上委員>

名簿に名前を書かない子どもは、どこの学校でも多いのですか。この資料にある数字は、名簿に名前を書いている子どもの人数なのですか。

<事務局：北條>

名簿に書いてもらっている数です。意見交換会の中で、管理人さん達は子どもへの声掛け等名簿に名前を書いてもらうことの苦勞について意見交換されていまして、この数字は実数に近いと思います。

<中上委員>

管理人さん達も努力されているようですが、事故があった時などに困るので、書いていただくように努めてもらうということですね。

<事務局：北條>

生涯学習課としても名簿に記入していただくよう周知の努力はしていますし、管理人さん達も声掛け等努力されているということです。

<守上委員長>

中学生が遊びに来たときも名簿に記入するのですか。

<事務局：北條>

対象は地域の子どもですから、記入していただきます。

<守上委員長>

他になければ、次の議題イ平成26年度の事業報告及び平成27年度の取組みについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局：北條>

お手元にお配りしております「平成26年度の事業報告について」をご覧ください。参加人数についてですが、1月末時点での参加人数は、述べ18,603名となっております。昨年度の同じ時期の参加人数は、18,591名となっております、全体としては昨年度とほぼ同じとなっております。

今年度は、山手小学校で一旦下校解消の取り組みを開始したことで、山手小学校の参加人数は昨年度より約500名増加しております。一昨年から一旦下校解消の取り組みを開始している岩園小学校の参加人数はほぼ昨年と同じですが、朝日ヶ丘小学校は約400名増加しています。原因が不明なのですが、打出浜小学校と浜風小学校も増えておりますが、宮川小学校と潮見小学校では参加人数が大幅に減っております。

傷害保険の届出件数につきましては、今年度12件となっており、昨年度は同じ時期に3件でした。資料には事故発生の日時と場所を掲載しております。土曜日の平均参加者数については後程ご説明いたします。

続きまして、平成27年度の取り組みについてご説明させていただきます。運営委員会については、今年度どおり学期に1回年3回開催する予定にしています。

放課後児童体験事業（あしやキッズスクエア）についてですが、青少年育成課を中心として生涯学習課、NPOさんびいすさんと協力しながら準備を進めています。各小学校の進捗としまして、精道小学校については、使わせていただける場所等、関係のみなさまにも何度もお時間をいただきながら調整を進めております。山手小学校では、地域の方でマネージャーを探していただき、和室やコミスク室などをお借りすることで進めております。潮見小学校は留守家庭学級で使っていたお部屋を使わせていただけることになっております。マネージャーや管理員などについてはシルバー人材センターにお願いし、プログラムの関係については青少年育成課、NPOさんびいすさんで少しずつ進めております。また、校庭開放とあしやキッズスクエア開催日については、一覧表にしております。

教室型事業についてですが、来年度は資料に記載している4つの団体で予定しています。この他に、NPO団体が岩園小学校で教室型事業を行いたいという話や、精中応援隊の土曜学び家（まなびや）を土曜チャレンジの補助申請で検討したいと思っております。

平成26年度報告、27年度についての説明は以上ですが、精道小学校と潮見小学校の土曜日の校庭開放のあり方についてご意見をいただきたいと思っております。月曜日から金曜日までは先ほどご説明したあしやキッズスクエアで、登録をして参加カードを持ってくることとなります。土曜日だけが従来の校庭開放として、登録も参加カードもなしで参加できることとなります。土曜日が従来どおり残ることで、参加する子どもたちや保護者の方が混乱するのではと危惧しております。なお、参考として、土曜日の参加者数については「平成26年度の事業報告」に平均参加者数を記載しております。ご意見よろしくお願いたします。

< 守上委員長 >

まず、平成26年度の報告について、質問、意見等ございますか。

< 西村委員 >

潮見小学校は土曜日の参加者数も減っているようです。原因として考えられるのは、例えば南芦屋浜のお子さんは帰るのが遅くなる、南芦屋浜には豊かな公園がある、他に活動することがある等でしょうか。南芦屋浜の子どもたちの動向が気になります。

<中上委員>

潮見小学校に通う児童の2/3ぐらいが南芦屋浜地区から通っているそうです。南芦屋浜地区には公園もあるし、あゆみ橋を渡って帰宅してから再び学校に行かないのかもしれませんが。宮川小学校は、プール棟工事の関係で校庭のスペースが狭い時期がありましたから、コミスクに行く前に遊んでいたような子どもたちも遊ばなかったのではないのでしょうか。

<事務局：北條>

幼稚園側の工事も含め、終わったのがつい最近だと聞いています。工事により校庭のスペースが狭くなったということが理由かもしれません。

<西村委員>

南芦屋浜地区から通っている子どもの保護者から、一旦下校しなくても遊べるようにしてほしいというようなリクエストはないのですか。

<金本委員>

潮見小学校は3年生まで集団下校で帰っています。親水公園や総合公園もありますし、塾に通う子どもも多くなっていることから、小学校で遊ぶ子どもが減っているのかもしれませんが。

<西村委員>

放課後小学校で遊べる醍醐味として、学年を超えて多人数で遊べるということがあると思いますが、平均の参加人数7人は少ないですね。親水公園などでは子どもたちがたくさん遊んでいて、放課後の居場所になっているようですね。

<金本委員>

基地を作ることなど、子どもは好きですが、学校ではできません。ボール遊びは公園ではできないので、学校に行って野球やサッカーをしています。あゆみ橋を渡って遊びに行くのも楽しいようですし、遠いとは思いません。

<中上委員>

橋を渡ったところにもあまり人がいないし、にげるところがないから、あゆみ橋は危険がいっぱいだと思います。3年生まで集団下校しているのもわかります。どうすればもっと安全になるのか、真剣に考えないといけないと思います。

<山田委員>

参加人数を増加させることが主たる目的ですから、参加人数一覧表できちんと分析をする必要があると思います。そのためには、根拠や手がかりとなるデータをこの場に出す必要がありますので、よろしくをお願いします。

<中上委員>

こちらでは推測しかできないので、塾や習い事があるから参加していない、などアンケートを取ってははどうでしょう。一旦下校解消の取り組みをする際にアンケートを取ったのではなかったですか。あの当時と状況は変わったでしょうか。

<事務局：北條>

アンケートを取ったのは3年ぐらい前だと思うのですが、一旦下校解消の要望が多かったのは山手3校だけで、他は要望がなかったと聞いております。

<西村委員>

来年度から潮見，精道，山手の3校で「あしやキッズスクエア」が始まります。「子ども・子育て支援事業計画」において、留守家庭児童会とキッズスクエアを放課後の大事な子どもの居場所の両輪として盛り込んでいますので、子どもたちが参加しやすいようなしくみを作って、子どもたちや保護者が多様な選択ができるよう、新年度にむけて検討してほしいです。

<事務局：北條>

あしやキッズスクエアは一旦下校せずに参加できますので、潮見小学校の校庭開放の参加者が少ないのが、あゆみ橋を越えて帰宅した子どもたちが参加しにくいということであれば、今後は参加者が増える可能性があると思います。あしやキッズスクエアをより良いものにするために、現在検討をしております。

<守上委員長>

何町の子どもが参加しているのか、何年生が参加しているのかなどはわかるのですか。

<事務局：北條>

名簿には名前と学年は書いてもらいますが、住所は書くようになっていません。

<山田委員>

どんな遊びをしているのか興味があります。一人で遊んでいるのか、集団なのか、校内の遊具で遊んでいるのかという実態を細かく見て、参加人数を増加させる手立

てを組む要因を知りたいと思います。また、傷害保険ですが、件数よりも要因や原因を知って、対処について考える方が大切だと思います。

<事務局：松本>

傷害保険の内容について、帰宅時に車と接触した交通事故が1件ありました。大きなケガではなかったです。他は、ボールが指にあたって指を骨折したというのが2件、滑り台から滑り落ちて膝をうった、ボールを取ろうとして着地した際の足の捻挫、サッカーゴールに頭をぶつけた、滑り台の下で立とうとして頭をうったというようなものでした。

<谷川委員>

遊具などは学校の施設ですから、点検などもしていますが、学校側も気になる所です。

帰宅中も保険の対象になるのですよね。

<事務局：長岡>

行き帰りも対象になります。

<谷川委員>

きちんと周知しないと知らない人もいるかもしれないですね。

<西野委員>

地域の子どもが対象ということで中学生が来るとも思うと思いますが、小学生と中学生ではパワーが違うので、ボール遊びなど注意が必要で、ルールなどを考えないといけないと思います。

管理人さんが書かれている日報から、参加人数以外に子どもたちがどんな状況で遊んでいるのかはわかりませんか。今後あしやキッズスクアに移行した場合、参加人数だけではなく、遊びの中身を知っておく必要があるように思います。

<事務局：北條>

日報にはどのような遊びをしていたのかを書く様式にはなっていないのですが、ボールやサッカー、おにごっこなど、どんな遊びをしていたか書いていることもあります。2, 3人で遊んでいるのか、大人数で遊んでいるのかについては日報ではわかりません。

<守上委員長>

来年度からあしやキッズスクエアが始まり、いろいろ変わるところもあるので、この委員会として細かく考えるための土台になるものが必要だと思います。来年度は報告書や名簿の様式を変えるなどして、もう少し詳細がわかるように考えていただけませんか。

<西野委員>

名簿は町名を記載しておいて丸印をつけるようにするなど、子どもたちに負担をかけないように、日報は必要なデータが取れるように管理人さんに書いていただけるようなフォーマットを作るなどの工夫が、今後必要だと思います。

<事務局：長岡>

今は放課後子どもプランとして校庭開放と教室型を行っており、たくさん子どもたちが自由に遊べる安全な居場所ということを主眼にしてきました。新しく始まるあしやキッズスクエアは室内や屋外のプログラムもありますし、どのように過ごすのかについても内容を考え、データを持って分析をしていかないといけません。ご意見をいただいた日報や名簿についても、内容を考えて子どもたちやマネージャーに負担をかけずに、知りたい内容が得られるフォーマットを考えたいと思います。

<宇佐見委員>

あしやキッズスクエアが始まる3小学校は、来年度始まるまでにタイムラグがあるかと思いますが、それまでの間、校庭開放事業が一部行われるのでしょうか、それともないのでしょうか。

<事務局：北條>

あしやキッズスクエアは4月を準備期間として5月に開始する予定となっております。4月だけ校庭開放をすることは考えていません。ただし土曜日は今までどおりとなります。

<宇佐見委員>

5月に開始するまでの間、子どもたちは校庭で遊べるのでしょうか。

<事務局：長岡>

校庭開放は行わないこととなりますので、午後4時までが授業が終わった後に残っていい時間になるかと思います。

<宇佐見委員>

そうであれば、早く周知しないと4月になった時に「なぜ遊べないのか」という不満が学校側にいってしまいますので、そのあたりをお考えいただきたいと思えます。3年後に全小学校であしやキッズスクエアが展開されることを見据えて、参加人数やどういった内容で遊んでいるのかを分析し、反映させていけるような形が必要ではないかと思えます。

<谷川委員>

現実的に考えてみると、コミスクなどもありますから、4時になったら門を閉めるというのは難しいので、子どもたちも何人かは来ると思えます。担任の先生も時間があれば一緒に遊べますが、いつも遊べるとは限らないし、混乱するし、子どもたちも行く場所がなくなるのではないのでしょうか。あしやキッズスクエアが始まったとしても、参加しないと校庭で遊べず、難しいと思えます。

<守上委員長>

27年度の実施のご意見が多いので、そちらを中心に進めたいと思えますが、ご意見ございますか。

<中田委員>

朝日ヶ丘小学校は来年度も校庭開放は火曜日と金曜日はないのですね。ボール遊びができる場所が少ないですし、火曜日と金曜日は4時までしか遊べないので毎日遊べるようにできないのでしょうか。サッカーゴールなどは使ってもいいのですか。

<事務局：北條>

サッカーゴールについては特に取り決めていません。

<谷川委員>

学校によって違うと思えます。精道小学校ではサッカーゴールは出ていますし、バスケットゴールも子どもたちは自由に使っています。

<事務局：中村>

朝日ヶ丘小学校は火曜日と金曜日はコミスクさんが校庭を使っているのではないのですか？もともとそこに制限があったのはどうしてかなと思えました。

<事務局：長岡>

コミスクさんが使っていた時もあったのかもしれません。もともと先にコミスク活動をしていたところに後から校庭開放を始めましたので、その兼ね合いではない

でしょうか。精道小学校では、毎日ではなかったのですが、校庭は空いているから毎日してほしいという要望があったため増やしたなど、学校によって違います。

<中田委員>

授業が6時間までであることが多いから、と聞いたことがあるような気がします。

<守上委員長>

変更することは可能ですか？

<事務局：長岡>

校庭開放管理人として来て下さる方がいらっしゃれば変更できる可能性もありますが、学校との相談や子どもたちへの周知が必要です。

<事務局：中村>

年度の途中からの方が予算的には良いかもしれません。

<西野委員>

一旦下校解消前は、岩園では子どもたちは4時まで遊んでいて、4時になったら帰っていったので、校庭開放が始まる時にはいないという状況が続いていました。子どもたちの中では4時まで遊べるという感覚はあるようです。岩園小学校の校庭開放日が少ないということが、運営委員会の議題になったこともあるようです。火曜と木曜はサッカースクールを4時からしております。月曜日は、以前土曜の野球が雨の場合、振り替えて使用していた時の名残なので、月曜は校庭開放をできると思います。

<山田委員>

あしやキッズスクエアについて質問があります。まず今日の会議では、あしやキッズスクエアに関することは参考意見と解釈していますが、既にあるこの放課後子どもプラン運営委員会との兼ね合いはどうなるのでしょうか。また、この運営委員会に関しては、次年度はどのようなメンバーを考えておられますか。

次に、事業の実施要綱等作られているかと思いますが、保護者や子供向けの案内やパンフレットは現在どの程度まで作られていますか？

また、潮見小学校ではマネージャー等シルバー人材センターにお願いしているようですが、最低条件としてどのような人材を考えておられますか。活動内容の工夫も大切ですが、何を目的に活動していくのか、どういう条件かということについて、学校や子どもの特質、地域性がありますので、今後の8校すべてに共通できるのか

不安に感じます。

<田中委員>

運営委員会について、あしやキッズスクエアでは学校ごとに条件も違いますから、学校ごとの調整会議を行いたいと考えています。調整会議のメンバーとしては学校、PTA、コミスクを中心にと考えていますが、学校ごとに違って来るかもしれません。要綱については今作りかけているところです。統合的、全市的な運営委員会についても検討しているところです。

スタッフにつきましても学校ごとに状況が違います。山手小学校のリーダー等は、山手コミスクが中心となって決めていただいています。教員免許が必要などという要件はありません。潮見小学校については、シルバー人材センターに、教員OBの方等、学校のことをわかっている方からの人選をお願いしているところです。シルバー人材センターの事務局からは、そのような人選が可能だとお聞きしています。一日あたりのスタッフとしては、リーダー1人、安全管理員2人、プログラムの指導者2人の計5人となります。それ以外にも大学や高校などにもボランティアのお願いをしています。安全管理員については毎日確実に必要だということもあり、シルバー人材センターに依頼しています。

事業は5月の連休あけから始めたいと思っています。校庭開放事業はあしやキッズスクエアに取り込まれることとなりますので、4月の校庭開放は行わず、安全管理員がいる校庭での自由遊びというのは、5月から行うこととなります。室内で行う目途のたっている学校については、室内遊びも5月から行いますが、室内で行う部屋を確保できない日のある学校もあります。プログラムについても、できるだけ回数を増やしていけるように考えており、社会教育関係登録団体や大学、社会貢献事業をしている一般企業などプログラムを開催していただける団体をあたっているところです。青少年育成課としては、プログラムを基本プログラムと特別プログラムに区分けしていこうと考えており、今あたっているのは特別プログラムの方が多い状況ですが、基本プログラムの方を充実させないといけないという考え方でプログラムを作成しています。

案内については、4月新学期が始まったところで保護者の方や子どもたちに説明できる形にしたいと思っています。先ほど、4月に校庭開放がないという事のアナウンスは早くしないとけないということでしたが、注意したいと考えています。

<西野委員>

基本プログラムというのは具体的にはどのようなものですか。

<田中委員>

囲碁、オセロや将棋などです。ボランティアとして一緒に遊んでもらうのと、プログラムとして認めるものをどう区別するかが難しいと思っています。

<西野委員>

校庭開放事業はあしやキッズスクエア事業に移行されるものと捉えておりますが、事業の移行によって、今までの校庭開放事業よりも、放課後学校で子どもたちがいろいろな活動ができるようになったと思ってもらうことが一番大事だと思います。ボール遊びができない公園ばかりで、子どもたちが自由に遊べる場所が学校のグラウンド以外ないですから、広いグラウンドで自由に遊ばせることも大事だとも思っています。基本プログラムで今の校庭開放の理念を尊重し、なおかつ事業が移行すればスタッフがより充実するのでより安全に、また少人数で遊ぶのではなく、みんなで遊ぼうという方向になれば、あしやキッズスクエアが始まっているところはいいなと思ってもらえると思います。3年間で全ての学校で行うのであれば、そういうイメージが大事だと思います。

<田中委員>

管理、整理されていない自主的な自由遊びが大事だということと、安全安心の管理のバランスが難しいところです。守口市や芦屋市の校庭開放の一旦下校しない取り組みを参考にしながら進めております。先ほど、参加者の増減の分析のために住所が必要だというご意見をいただきましたが、どのようにできるのか今から検討したいと思います。ご意見いただいたように町名を印刷しておくなど、できるだけ簡単にできるように考えて準備を進めていきます。

<西野委員>

これは登録制ですね。年度途中からの登録も可能ですか。

<田中委員>

可能としています。

<事務局：中村>

子どもたちが安全に遊べる空間があるということが一番大事ですので、それを重視し、それぞれの学校の状況をふまえた事業であるべきと考えています。まずはどうすれば子どもたちが安心安全に遊べるのかということです。校庭開放事業があるというのは先進的なので、そこを大事にしながら、教室の中でも遊べるようにする、長期休業中も遊べるようにする、というように拡充するところを出発点として、無理をせず、子どもたちの安全確保を基本としたところからの組立てをしっかりとすべ

きだと考えています。

ボランティアについては、広報で募集したり、大学に依頼するなど少しずつ進んでいます。できるだけたくさんの方で見守りながら、安全に遊べる空間をどのように確実に作れるのかを基本とし、プログラムについても、自由遊びのリーダーとして例えば大学生が子どもたちに遊び方を教えたり、自主性、創造性を引き出せるような遊び方ができるということを理念としながら、できるところからできるように広げていきたいと考えています。

<宇佐見委員>

運営委員会について、学校ごとには開設の予定で、全体としては決めていないということですが、校庭開放事業があしやキッズスクエア事業に移行するのであれば全体で話し合うことも必要だと思います。来年に向けての準備として、お聞きしたところでは不安があります。できるだけ早い時期に相談しながら練り上げていくことも大事なのではないのでしょうか。最初から完璧なものを作ることは難しいので事業を行いながらいいものに作り上げることも大事なのですが、最初のベースはいろいろな人の意見を聞きながら作り上げていただきたいと思っています。保護者は期待をしていますので、だからこそいいものを提供できるよう行政で考えていただきたいと思っています。

<田中委員>

説明やお願いなど、各学校の関係者の方々と話をしていきたいと思っています。

<山田委員>

この事業の短期計画、長期計画が気になっています。平成29年までに8校ということですが、計画として5年や10年で区切るつもりなのか、ずっと続けるのか、何年ぐらいまで見通されているのですか。また、27年度3校で始めるので、あと5校残っていますが、27年度1年間の実績をふまえて28年度、29年度について何校開催するかを考えるのですか、もう決まっているのですか。

<田中委員>

あしやキッズスクエア事業はずっと続くものと考えています。開催校数については、27年度3校、28年度3校、29年度2校の予定です。具体的にどの学校になるのかは、まだ決まっていません。

<守上委員長>

事務局から、あしやキッズスクエア開催校では、土曜日は登録カードなしで参加

できる校庭開放事業となり、子どもたちが混乱するのではないかという検討事項がございました。みなさまのご意見お願いいたします。

<金本委員>

土曜日は今までどおり、自由に遊べるようにしてほしいです。潮見小学校では平日より土曜日の方が参加しやすいようです。午前中は校庭開放、午後はコミスク活動になっているので、コミスクの方は午前中も使いたいただろうとは思いますが。

<丸田委員>

確かに土曜日はいつ行っても少ないですが、お父さんと一緒に鉄棒の練習をしていることもありますので、個人的には校庭開放をしてほしいです。近くの公園は鉄棒が少ないですし、土曜日しか行けない子どももいます。校庭開放開催日のカレンダーが配られていても、土曜日に遊べることや保険の対象になっているということを知らない人もいますので、4月にあしやキッズスクエアの説明会をする時に、土曜日利用するかについて聞いてみて、必要とされていないのであればやめてもいいのかなと思います。

芦P協から質問を預かってきているので回答をお願いしたいのですが、学童保育に入るための待機児童はたくさんいるのですか。また、学童保育は午後7時まで延長可能ですが、4年生以上のお子さんについて午後5時以降の対応について考えられていることがあれば教えてください。

<田中委員>

学童は低学年が対象となっていますが、待機児童はいません。高学年について午後5時まであしやキッズスクエア、5時以降学童の延長に行く、というようなしくみについては、方法としては考えられますが、現在のところ実施は考えていません。

<丸田委員>

低学年で学童に在籍している子どもについては、午後5時まであしやキッズスクエアに行って、5時以降学童の延長に行く、ということは可能ですか。

<田中委員>

それについても、まだ実施については考えていません。

<西村委員>

今後の子どもたちの居場所を確保することは大事ですが、一方で子どもたちの成長していく過程での自立心を養うこともすごく大事です。今まで学童が3年生まで

だったのは、4年生以降は自分でお留守番をしたり、地域で友達と一緒に遊ぶなど社会性、集団性が育っていこうということだったのではないかと思います。今、児童福祉法が改正されたのは、社会的に危険な状況が増えてきているのも一つの理由だと思うのですが、子どもの社会性がまだまだ乏しいという問題があるのだと思います。乏しいからといって守っていけば、子どもはどんどん幼児化して自立できないのではないのでしょうか。保護者の心配もわかるのですが、子どもの育ちをもっと支えることを考えられるしくみを、行政としても地域としても考えていかないといけないのではないのでしょうか。課題として持って帰っていただきたいと思います。

< 守上委員長 >

事務局からは、あしやキッズスクエアが開催される3校について、平日は登録制で登録カードを持って参加しないとイケないのに、土曜日については登録カードなしで誰でも参加できるということで、混乱を招くのではないかということについての意見はいかがですか、ということでした。土曜日は今までどおりやってほしいということですが、混乱しないかということについてはいかがですか。

< 丸田委員 >

土曜日の校庭開放は今までどおりです、と聞けば、そうなのかなと思うだけだと思います。

< 事務局：長岡 >

保険のPRの問題について、校庭開放で遊んでいる時や行き帰りの時にけがをしたら保険の対象になるということは、説明の際にはお伝えしておりますが、一度聞いただけではなかなか理解していただけないのだと思います。またお配りしているカレンダーにも保険のことについて記載しておりますが、PRについては引き続き努力していきたいと思います。

< 西野委員 >

事務局のPRということもあるのですが、それぞれのPTAの活動の中でも口コミなど、アピールをしていただきたいと思います。

< 宇佐見委員 >

来年度、土曜日のみ校庭開放事業があるのは精道小学校と潮見小学校になると思います。土曜日は今までどおり、ということの混乱はないと思うのですが、月曜から金曜はカードもいるし、登録した人だけが保険の対象になるという区別をつけることは難しいと思います。みなさんに明確にご理解いただけるようにしないといけ

ません。

< 守上委員長 >

まとめとしまして、PRについては行政やPTA、その他コミスクや学校でそれぞれ力を入れて行うということ、参加者の詳細なデータを集めることについては事務局で検討するということと、校庭開放を増やしたいところについても検討をお願いするという事です。

今年度委員会は本日が最後です。来年度、委員が替わられる場合には委員会の内容について引継ぎをしていただきますようお願いいたします。

他になければ、これで閉会します。

—閉会—